



発掘された関東の遺跡 2022

内容：「発掘された日本列島 2022」展で展示されている、関東地方で発掘されたトピック的な遺跡について紹介します。
日時：2022(令和4)年6月26日(日)
会場：埼玉県立歴史と民俗の博物館 講堂 〒330-0803 埼玉県さいたま市大宮区高鼻町 4-219
主催：全国埋蔵文化財法人連絡協議会関東ブロック協議会連携事業実行委員会

令和4(2022)年度発掘調査成果発表会・展示会

内容：かながわ考古学財団が令和3年度に発掘調査を実施した遺跡の調査成果について発表し、あわせて遺物を展示します。
日時：2022(令和4)年10月(予定)
会場：横浜市歴史博物館(予定)

公開講座「時代の変換点に生きた相模の人々の暮らし～古代から中世へ～」

日時：2022(令和4)年12月10日(予定)
会場：伊勢原市中央公民館展示室ホール 〒259-1133 神奈川県伊勢原市東大竹 1-21-1
共催：伊勢原市教育委員会

東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業(公開セミナー)

内容：神奈川県・東京都・埼玉県の埋蔵文化財関係財団連携事業です。今回は「古墳時代の祭祀」をテーマとしています。
日時：2022(令和4)年12月4日(日)
会場：行田市教育文化センター(予定)
主催：(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催：(公財)東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター・(公財)かながわ考古学財団
※行事の詳細は財団ホームページ・フェイスブック・ツイッターでお知らせいたします。掲載をお待ちください。

【海老名市主催事業】

えびな文化財探求舎体験講座 ～ 勾玉、瓦のレプリカをつくろう ～

内容：勾玉作りやミニ瓦レプリカ作りのほか、財団の門沢橋出土品整理室の見学会*も実施します。
日時：2022(令和4)年8月3・4日(水・木)
主催：海老名市教育委員会
※門沢橋出土品整理室の見学会は4日のみです。イベントの詳細は海老名市の広報やホームページをご確認ください。

～おしらせ～

【海老名市 門沢橋出土品整理室が完成しました！】

令和4年6月より、海老名市門沢橋に新たな出土品整理室を開所しました。当財団の整理室はこれで2つ目で、整理作業にもより力を入れて取り組むことができます。また、地域の方々にも財団の成果を還元できるように、普及事業などを考えていきます。引き続き当財団の活動のチェックをよろしくお願い致します！

【YouTube チャンネル & 公式ツイッター始めました！】

財団 YouTube チャンネルと twitter を開設いたしました！「かながわ考古学財団ちゃんねる」では見学会の様子等をアップしていく予定です。財団フェイスブックとあわせ、ツイッター、YouTube でも情報発信をしていきますので、是非、ご視聴、ご登録やフォローをお願いします！！



財団 YouTube



財団 twitter



お問い合わせ

(公財)かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-252-8689 (代) FAX: 045-261-8162



財団 HP

発掘帖バックナンバーはホームページからダウンロードできます。



かながわ考古学財団情報誌
発掘帖 No.37
2022(令和4)年上半期号
令和4年6月24日発行

編集・発行:(公財)かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
TEL:045-252-8689 FAX:045-261-8162
ホームページ:https://www.kaf.or.jp
Facebook:https://www.facebook.com/kanagawakougakuzaidan/
Twitter:@kouko_kanagawa



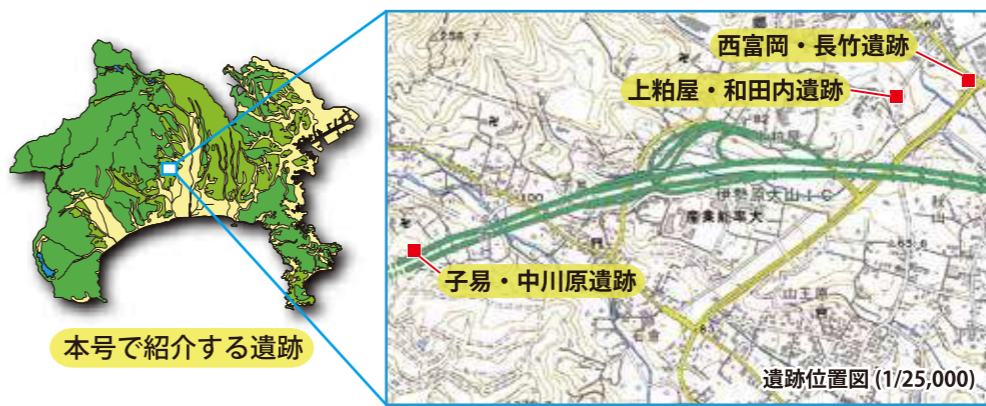
よみがえる【中世寺院】
子易・中川原遺跡

子易・中川原遺跡で発見された「中世寺院」

伊勢原市子易・中川原遺跡が位置する場所には、かつて「僧慶山安楽寺」(16世紀創建)という寺院があり、明治時代以降に廃寺となったと伝えられています。

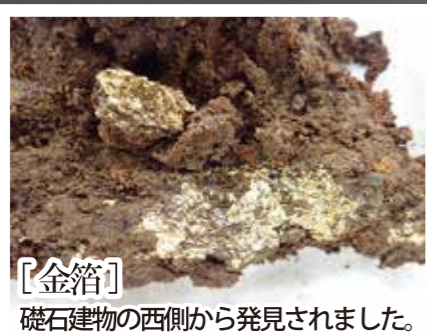
2016～2021年の中世遺構の調査では、安楽寺よりも古い、中世寺院(13世紀代)の本堂と考えられる礎石建物と池状遺構が発見されました。池状遺構には堤(堰堤)があり、人工的に造られた池であることが分かりました。この中世寺院は本堂の正面に池がある「浄土庭園」の可能性が有ります。

さらに2021年の調査では、本堂に隣接する「礎石建物(墳墓堂か?)」と「石組墓」が発見されました。



次ページの特集に続きます
次の見開きは、当財団の発掘調査成果による伊勢原市内の鎌倉時代の火葬についてご紹介しています。

※調査の内容は発掘時点の成果であり、調査の進展及び出土品整理作業において、名称や評価を変更する場合があります。

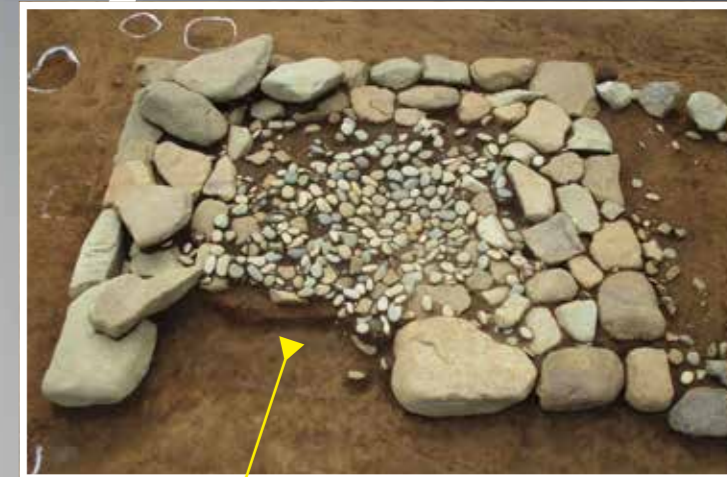


【金箔】
礎石建物の西側から発見されました。



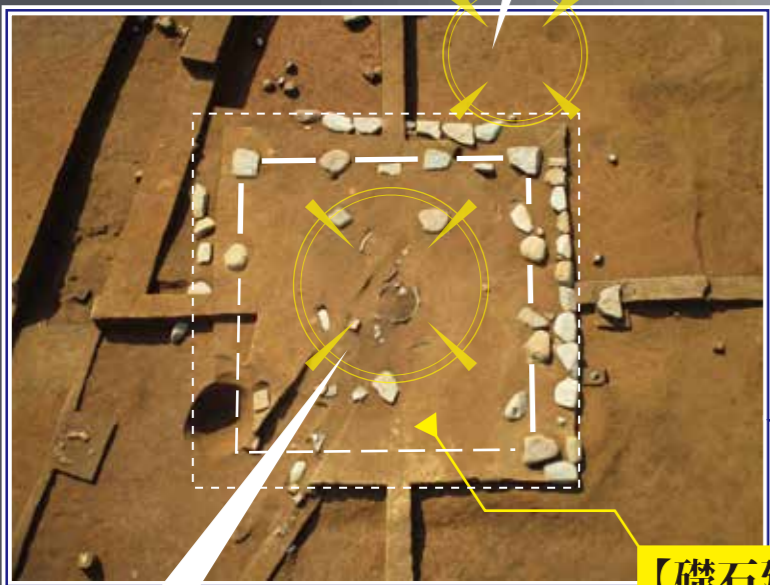
子易・中川原遺跡

《中世寺院の墳墓堂？・石組墓》



【石組墓】

3基の石組墓を調査しました。
大きな石を二段並べて長方形を作り、その内側に扁平な玉石を積み上げています。



【礎石建物（墳墓堂か？）】

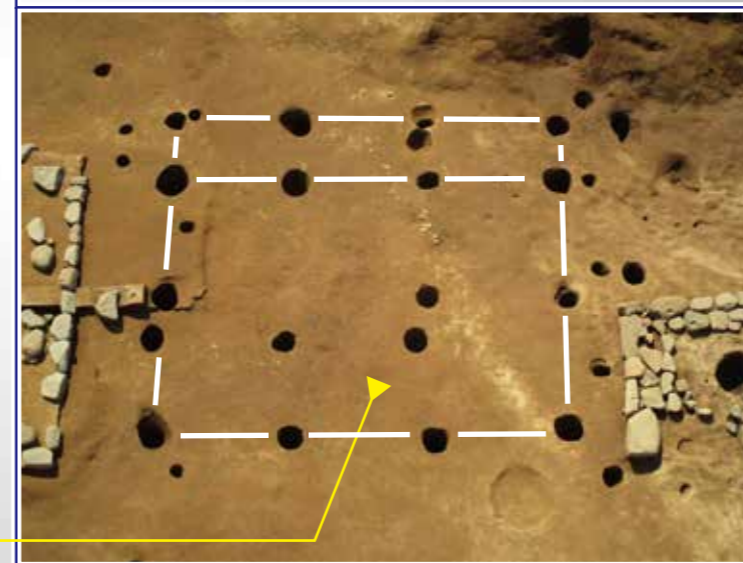
東西3間×南北3間で、一辺4.0m程を測ります。
地面を削って作り出した基壇上に礎石が配置され、基壇の周囲には縁石が並べられていますが、建物の南西側は崩れています。
建物の中央部には火葬骨を納めた常滑の大甕が2つ埋められていますが、埋納の時期には新旧があります。



【大甕】

【掘立柱建物】

礎石建物と石組墓の間で検出されました。
東西3間×南北2間で、東西5.8m×南北4.9mを測ります。建物の西側には縁が付いています。



【礫石経】



石組墓から出土した扁平な玉石に墨で文字が書かれていました。お経と考えられますが、まだ判読できていません。

《中世の火葬墓》
上粕屋・和田内遺跡



【火葬墓】



焼骨

西富岡・長竹遺跡



【集石墓】



甕の中は焼骨が入っていました

近年、伊勢原市で発掘されている遺跡では多くの中世遺構が発見され、なかには中世の“火葬”に関連する遺構も含まれています。

上粕屋・和田内遺跡では火葬墓が発見されました。礫で区画された東側、区画を持たない西側の2つの部分で構成され、それぞれの範囲からは焼骨や焼土、炭化物が見つっています。

西富岡・長竹遺跡では、集石墓から常滑の甕が発見されました。甕の中には焼骨が入れられ、その周囲の集石墓からも骨片や焼土が発見されています。